

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話 (〇七五) 二二二二・一八二八

《人生の処し方「仕事の都合・体の都合？」》

高校二年のアルバイトから「仕事の都合で」毎日を通してきました。昨年の初めころからは「体の都合」で毎日を過ごしています。約60年間弱は仕事一筋、人生そのもの24時間が仕事でしたが、仕事の継承も還暦から12年かけて完了？生涯現役を目指してはいるものの、体の自由は段々不自由に、毎朝ストレッチで体を解してスタートです。首・肩・腰・肘・膝・・・と解放してからしか動かせません。60歳代に先輩から毎朝ストレッチをしてから出勤と聞いて、可笑しいなと感じましたがまさに自分に降りかかっています。平成の初めに都ホテルのフィットネスのメンバーに入りおかげさまで何とか？ところが一昨年初めから今年にかけてホテルの改築に機能が大幅移動で十分な体のこなしが出来ずに大騒動しています。

《若狭路は美味の街道》

松林百選・中庄浜公園前「望雁」では冬真つ最中ということで、店内中央にある薪ストーブが体を温めてくれます。家にあるエアコンと違い、柔らかな温かみがあるのが薪ストーブの特徴です。店主さんもマキノ生まれではなく夫婦そろって高浜原発から避難してきたそうです。この老夫婦とも仲が良く素敵な生活を送っているのが伝わってきます。めちゃくちゃ話好きで近所の話から常連さんの話まで、いろんなことを聞かせてくれます。私たちが当地の別荘を大丸百貨店から購入した時からお付き合い戴いています。当初の建物は保養所仕様で冷暖房でしたが、冬の寒さにエアコンが凍り付いて、店主に相談すると「都会モンはこれだから」と薪ストーブの説明をして戴き昨年平屋四戸新築時には薪ストーブを設置しました。

私の本棚 おすすめの一冊 粉川 剛

《MMTによる令和新経済論／藤井聡著》

MMTは日本経済の救世主になれるのか？④
「日本は『衰退途上国』、デフレがこのまま続けば東アジアの一貧国に成り下がる」と著者藤井氏は国の将来を心配する。事実2015年までの20年間の名目GDP成長率がマイナスなのは世界で日本のみ。原因は間違った経済政策により政府支出を削減し消費増税した結果のデフレ。経済の立て直しにはMMTによる政策を実施すべきと述べる。本書ではMMTに関する誤解にも反論している。よくある誤解の一つが「財政赤字を無制限に垂れ流すことを推奨する不道徳なトンデモ理論」がある。MMTは「日・米など先進国の自国通貨建て国債のデフォルトは考えられない」と述べているが、これは無制限に国債を発行するということではない。「税収ではなくインフレ率に基づいて財政支出を調整すべき」と適正なインフレ率を目指す理論である。

土口哲光和尚の説法

《恥をかって精進しなさい》

墨書が全く書けない六十歳の自分にあきれて書の教室に入門した。墨が飛び散って衣服を汚す。妻の割烹着を持ち出し掛けて紙面に向かう。週に一回、夕刻六時から二時間の講座にできる限り出席する。中国古典からの漢字の字本を見ながらの臨書、平仮名、やがて書体の一つ隷書にも挑戦した。十六年が瞬く間に過ぎ、「人は書なり、書は人なりの世界」を感じている。当初に東寺の境内・山門など七箇所にある掲示板へ弘法大師さまの經典からの言葉と解説を綴るよう指示された。書の師匠・三藤観映先生に相談すると、「引き受けなさい。字が上手になるには時間がかかるので恥をかきながら始めよ」と。確かに反響はあり、恥の嘲笑の声から激励のメールまで、お育て戴いた。

季節の家庭料理 田村 真紀

《二月 小松菜たっぷり餃子の餃子》

冬の小松菜は甘みが増して栄養価も豊富です。
《作り方・四人分》
小松菜三百グラム(洗ってみじん切り)・豚挽肉三百グラム・シイタケ四本(みじん切り)・生姜すりおろし小匙三・餃子の皮四十枚・調味料(酒大匙一・醤油小匙二・オイスターソース小匙二・ごま油小匙一)塩小匙一・ごま油適宜 たれ(醤油・酢各大匙四、好みでラー油少々)
小松菜に塩小匙一をもみこみ、しんなりしたら水気を絞る。ポウルに小松菜、挽肉、シイタケ、生姜、調味料を入れよく混ぜ合わせて種を作り、餃子の皮に包む。フライパンに油を熱し餃子を並べ、水を高き三分の一まで注ぎ強火で蒸し焼きにする。水気がなくなったらごま油少々を垂らす。

つれづれの記 山崎 辰巳

《吾唯知足》

京の名刹、龍安寺の庭にある石の手水鉢には「吾唯知足」の文字が刻まれている。水溜めの中心の正方形の周りに五・佳・疋・矢という文字が配され、中心の正方形を口と見れば吾唯知足(われただたるをしる)となる。この知足(足ることを知る)は、お釈様が臨終の時に説かれたとされ、京セラの稲盛和夫氏はじめ多くの人に支持されている。さて我々は今、この知足を忘れてしまっているのではないだろうか？政治情勢も社会現象も、我欲と不平・不満に溢れ、物欲も情報も飽和点に達している。人間の欲望は限りないが、今の日本は、物質的、精神的にも充分満たされている。「足らず」を追う前に、「足りている」ことを知り、感謝すべきではないだろうか。